



大学・動物園勉強会はじまる

動物園では、茨城大学と連携して共同研究を色々と進めています。昨年度は来園者向けのスマホアプリを開発してもらったり (<http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/003/p049878.html>)、フラミンゴなど鳥類の雌雄判別や家系分析、草食獣の外部寄生虫によるストレス評価とその防除対策、アジアゾウの敵対状況の分析と改善策などなど、当園にとっても有益な研究を行っていただきました。

共同とは言っても、ほぼ大学さんにお任せ、って感じなのですが、今年も昨年以上の件数で事業が進められています。そうした内容や結果は追い追い紹介していけるとと思いますが、そうした共同研究とは別に、あるプランが進行しています。

それは今年3月に、平成27年度の共同研究成果の打上げ（まあ飲み会ですね）をやった時に出た話です。共同研究は、大学側でプランを練り、動物園の飼育や獣医と調整しながら年間計画の中で進めるといういわばフォーマルな事業です。しかし「研究テーマはいくらでもあるけど、硬くならずにもっとざっくばらんな雰囲気で動物園や動物のことを語り合えないか」という話が先生や園側と以前から出ていました。そこで、その日はお酒の勢いもあり、皆で「そうだそうだ、勉強会をやろう」と盛り上がり、私と共同研究を総合的に束ねている農学部准教授小針先生とでぜひ実現しようということになりました。

具体的には、今年の夏以降に小針先生のほうで色々準備をして頂き「10月19日18時動物資料館で開催」まで漕ぎつけることができました。題して「茨城大学・かみね動物園第1回動物園学勉強会」。

どんな形でやるか、まだ確たるものはないのですが、1回目は話題提供ということで小針先生から基調プレゼンをして頂きました。テーマは「環境エンリッチメントとは?」。いきなりの直球勝負です。退勤後の自由参加ということでどれぐらいの数が集まるか不安でしたが、大学の先生、学生、園あわせて35人ぐらいになり幸先の良いスタートに。プレゼン後の質疑・自由討論では、はじめこそ硬かったものの、「エンリッチメントとショーは動物にとってどう違うか」や「お客さんとエンリッチメントの関係は」など徐々にいろんな意見交換に。普段なかなか言いにくいこともここでは自由な雰囲気発言できます。お腹も空いてきたので約1時間半の日程はあっという間に過ぎて行きました。



終わってから、やはり時間も時間なので食事代わりにまた先生や飼育員数人と居酒屋へ（結局飲むのです）。反省会では「初回にしてはまあ人も集まり意見交換もできて良かった

が、進め方としては、プレゼン者が一方的に話す割合を減らしたり、数人のグループでディスカッションしたり、ワークショップ的な流れをつくったりなどもう少し考えよう」となりました。いずれにしても、これだけの参加者がいるということは、動物園や動物に関して普段聞けないような話題や素朴な疑問などに飢えている人が多い（私も）、ということが分かり是非次回へ繋げようとなりました。これを読んでいる一般の方は別世界のような感じで申し訳ないのですが、こうしたムーブメントが動物園運営に何らかの形で還元できればと思っていますので、乞うご期待！

大学側で用意したちゃんとした（笑）ホームページもありますので訪ねてみてください。

[→コチラ](#)（新しいウインドウが開きます）

2016年10月22日

動物の力

ナントカの秋、よく聞くフレーズですが動物園ではスポーツの秋にちなみ「どうぶつスポーツ大会」を行いました。あとで飼育員のブログにも載ると思いますので詳細は触れませんが、動物の秘められた能力を実際に人間がやるとどうなのか、という体験型イベントです。たとえば、幅跳び。アカカンガルーの跳躍力はすさまじく、8mぐらいを飛んでしまいますが、人間がやるとどうか、とジャンプ力対決。チンパンジーの握力は300kgと言われてますが、人間はどうかと握力対決。ライオンの雄叫びは110デシベルあるそうですが、人間はどうかと大声対決。さすがに動物に登場してもらうわけにはいかないので測定器具を使って測ります。私も、「見本を」という司会者の声に促され大声対決にトップバッターで登場。日頃のウップン(は無いですが)を晴らすかのように腹の底から大声を出しました。結果102デシベル。うーん、さすが110の王、ライオンには勝てません。子どもたちも次々に自分の能力を計測していきましたが、とても動物たちの力に抗うことはできませんでした。おそろべし動物のもつ力。



《ジャンプ力対決》

今日も園内を歩いているとエゾヒグマが盛んに土を掘り返していました。新しいクマ舎ができた当初もよくやっていて、そのたびに飼育員は埋戻し作業。鋭い爪と強靱な腕力で1mぐらゐの穴はあっという間に掘ってしまいます。動物にとってはストレス解消にもなっているのですが埋める方は大変です。これも能力の一つですが、今年はこの力であちこちで痛ましい事故が発生しました。クマだけでなく、シカやサル、イノシシなども大きな社会問題になりつつあります。今朝のニュースでも、関西地方でサルが出没し捕獲を試みたが失敗し

たと報道されていました。すばしこく動き回るニホンザルは、簡単に捕まるものではありません。



《穴掘り名人エゾヒグマと掘った3つの穴》

野生動物と人間社会の共存、言葉でいうのは簡単ですが、なかなか、いやとても奥が深く難しい問題です。しかしこうした問題を考えるうえでも動物特有の能力はしっかり押さえておく必要があると思います。どうぶつスポーツ大会で無邪気にはしゃぐ子どもたちを見ていてそんなことを考えました。

2016年10月17日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)